

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名： 通所介護 くらしの家

施設種類： 認知症対応型 通所介護

日時： 令和7年12月25日 10:30～11:30

会場： 通所介護 くらしの家 相談室

出席者：

利用者代表	0人	第三者委員	0人
利用者家族	1人	出雲高齢者あんしん支援センター 担当職員	1人
事業所職員	2人		

※第三者委員の方は急遽欠席される

(議題)

1. 挨拶
2. 自己紹介
3. 活動報告
4. 意見交換
5. その他

3. 活動報告（事業利用状況、及び前年度との比較による運営状況）

- 1) 月別利用延べ人数（R6年度実績とR7年度実績の比較と傾向）
- 2) 曜日別登録者数（R7年5月とR7年11月の比較）
- 3) 利用者の介護度（R7年5月とR7年11月の比較）
- 4) 紹介居宅事業所数（R7年5月とR7年11月の比較）
- 5) 利用者の平均年齢（R7年5月とR7年11月の比較）
- 6) 自主事業（R7年6月～R7年11月の実績）
- 7) 職員資格（R7年5月とR7年11月の比較）
- 8) 一日の流れ
- 9) 年間行事計画
- 10) 防災訓練（地震・津波の想定）
- 11) ボランティア
- 12) 苦情・ひやりはっと・事故報告
- 13) 職員会議、職員研修
- 14) 事業所環境整備状況
- 15) その他（新型コロナ関連）

4. 意見交換（評価、要望、意見、助言等）

あんしん：身体の動き、歩行状態はどうですか？

くらにし：自立されている方が大半です。見守りが必要な方や2人介助じゃないと不安定な方もおられます。なるべく車椅子ではなく、歩く事は認知症の方に良いと聞いてますし、自宅での生活に支障がない様にデイでは歩いていただいています。要介護5の方で車椅子を使用されている方もおられます。

ご家族：そういった要介護5の方も対応できますか？

くらにし：出来ます。その方は歩ける時から来ておられます。転倒・骨折されてから車椅子生活になられ、そのまま継続で来ておられます。しかし、職員が抱えて介助しても立位が出来なくなり、理解も難しく、機械浴のないくらにしでは入浴に危険が伴うため機械浴で入れるデイに変わられました。娘さんがここにも来たいと希望されて週1回は入浴なしでご利用されてます。

あんしん：（ホックのパン喫茶の写真をみられ）皆さん外出されますか？残られる方はおられますか？

くらにし：ほとんどの方が行かれます。

（ビンゴ大会の写真から）紙に書いてある言葉を見て1マスごとにその言葉を書いてもらって、くじ引きで出た言葉を埋めます。字は普段から書かないと書けなくなりやすいのでトレーニングの一環として書いてもらってます。

ご家族：皆さんお互いにお話されてますか？

くらにし：お話されています。されない方や出来ない方もおられますが。最近は利用者さん同士でしゃべっておられる事が多いと感じています。

あんしん：若年性認知症の方は年齢の高い方と一緒になじまれていますか？

くらにし：会話が出来る方はされていますけど、症状が進んでいる方はコミュニケーションが取りづらくなってます。高齢になると共になる認知症状とちょっと様子が違ったり、たどる経緯が違うような気がしています。徐々にではなく急激に進行するように思います。もう少し早い段階でデイを利用して下さるとお互いに様子が分かると思いますが、自宅での介護に限界を迎えてからの利用となると、かなり進行しておられ何を訴えておられるのか汲み取って差し上げるのに難しい所があります。コミュニケーションが取れるうちにもう少し早く利用していただくと、進行のスピードに慣れて行けるのかなと思います。

ご家族：家族はサービスを利用し始める時は悩みに悩んで、本人にとって何がいいのかすごく考えました。家にいる方がいいのかなと思ったり。でもデイを利用するようになってからは行かんと言った事は一度もないです。家族が自分たちで頑張るという思いはあったので、もう少し早く来ても良かったかなと。でもある程度の線を越えてから行くんだという思いはありましたね。様子が分からないし、事業所によっても違うだろうし。今はおばあさんで行かせてもらって良かったねと話しています。

デイでの様子は連絡ノートに書いてもらっているので分かります。本人に聞いても「別に何だい、あー、行ったかもっせん」と言って覚えてないです。

くらにし：家族さんは頑張ってよく見てあげておられます。しかし頑張りすぎて限界をこえてしまうと在宅で過ごすことも難しくなってしまう施設入所となる方も少なくありません。可能な限り住み慣れた自宅で過ごしてもらうためにもっとデイサービスの敷居が低くなると良いと思います。

ご家族：ヒヤリハットを共有しておられていいですね。迎えの時間をうちも対応してもらい助かっています。ヒヤリを見て必ず一番で行くなどされていてなかなか大変だと思います。

くらにし：お仕事の関係で家族さんが先に出て、迎えが来るまで一人で待たせていると心配だとい

う事で、近場ではありますが1番に行くという対応をさせてもらう事になった方もおられます。

あんしん：地域の方はどこらへんの方がおられますか？

くらにし：現在多いのは大社、遥堪です。塩冶の高齢者専用住宅に住んでおられる方を迎えに行っていたこともありましたが。現在一番遠いのは出雲ドームの近くの方です。以前に比べ最近はわりと近くの方が多いです。

ご家族：認知症対応のデイは減っていると聞いてますが。

くらにし：閉所される所もあり、減っていると思います。認知症対応のデイと言うと敷居が高い印象があるようです。認知デイは一般デイ等に比べて利用単価が高いです。そうすると限度額の関係でたくさん出掛けて欲しくても回数が思うほど増やせないです。その為、くらにしは苦肉の策として10分ほど営業時間を短くして単価を一つ下げ1回でも利用回数を増やせたり、金銭的負担を減らしたりで、他との差別化を図りました。認知症の方が十分にサービスを利用しながらあらゆる負担を軽減でき、自宅での生活が継続できるような制度になるといいなと思います。

ご家族：認知症対応型じゃないところへ行かれる方もおられますか？

くらにし：おられます。一般のデイでも認知症加算という加算がとれるようになったので受け入れられるデイが増えていると思います。

ご家族：定員は12人ですか？

くらにし：定員は12人ですが、今は1日9人前後の利用でセーブしています。どこも人手不足で今の職員の人数だとそのくらいがベストだと思っています。職員を募集しても応募が無いので職員を増やせないし、今のいる職員できる限りをさせてもらっています。これくらいの人数だとガヤガヤし過ぎないので落ち着いて過ごしてもらえそうな気がします。

ご家族：デイからうちに帰ってもソワソワしてないです。おうちにいるような感覚でいるかもしれません。

くらにし：建物が民家を改修してありますので、よそのお宅へお茶飲みに来た感覚で過ごせてもらえると思っています。いかにも施設というような建物ではないので。

ご家族：自然な感じで帰ってきてますよ。

5. その他

年間の活動写真を見ていただく。